

KLIS TODAY

No.
4

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

実習・インターンシップについて

緑川 信之

今年度の図書館情報学実習（図書館情報専門学群）と来年度のインターンシップ（知識情報・図書館学類）を担当している緑川です。これまでは図書館情報学実習という名称で実施してきましたが、知識情報・図書館学類生向けにはインターンシップという名称に変わります（専門学群生には来年度以降も図書館情報学実習として開講）。内容については基本的な変更はなく、どちらも図書館・官庁・企業体等における情報の収集・処理・提供に関する業務を実体験するものです（詳細についてはp.2のコラム「インターンシップ」をご参照下さい）。

今年度の図書館情報学実習は49機関に62名がお世話になりました。関東地区32名（つくば地区9名）、関東以外の地域（学生の出身地を含む）30名という割合です。機関の種類では、公共図書館36名、大学図書館12名、専門図書館（国立国会図書館を含む）8名、研究所・新聞社・書店6名となっています。来年度はもう少し企業関係を増やしたいと考えています。実習報告書には、「職場の皆さんが、『自分の仕事が職場を支えているんだ!』、『こんなプロジェクトをやろう!』といった気概にあふれており、生き生きと働いていたことに感動した」などの感想が書かれていました。知識・技術を学ぶだけでなく、実社会で働くことの意義も体得できたのではないかと思います。

（みどりかわ・のぶゆき 知識情報・図書館学類 教授）



2007年度の就職ランキングに登場

週刊東洋経済10/18特集号の大学学部の就職率ランキング（文系）で、図書館情報専門学群が54位（91.7%）にランクされました（国立大学では5位）。知識情報・図書館学類でも、キャリア教育、図書館就職のための模擬試験（2年生から実施）、企業就職のための説明会や模擬面接の実施等のキャリア支援を行っています。



図書館情報学実習を終えて

横山 英里佳



夏休みに3週間、筑波大学附属図書館で実習を行ってきました。今年度は耐震工事の関係で、1週目に医学図書館、2週目に体芸図書館、3週目に中央図書館での実習となりました。

1、2週目は、情報サービス課の業務として、日々図書館で受けているようなサービスの提供を行いました。具体的には貸出・返却処理、文献複写、図書館間相互貸借（ILL）処理、簡単なレファレンスなどです。その他に新着図書・雑誌の処理や配架、シェルフ・リーディングといった作業も行いました。

3週目は、情報管理課の業務（新刊本のデータ入力や図書購入・雑誌受入、さらには古典資料や電子図書館に関わる業務など）を一通り行いました。毎日異なった業務に取り組むこととなり、とても刺激的でした。私が印象に残っているのは選書作業と目録作業で、幅広い知識を持つ必要性を痛感しました。特に、目録については授業で学んでいたとはいえ、実際に図書に分類を付与するのは難しかったです。

3週間の実習を通して、大学図書館での仕事をおおまかに掴むことが出来ました。また、実際に授業で聞いていたことを実感する場面も多かったです。個人的に電子ジャーナルが気になっていたのが、現場の声を直に聞くことが出来てよかったと思います。3週間という長いような気がしますが、あっという間に過ぎていきます。図書館で働いてみたいと思っている方、まだ迷っている方は、図書館へ実習に行って将来の参考にしてみるとよいと思います。

（よこやま・えりか 図書館情報専門学群3年次）

インターンシップ

来年度から開講されるインターンシップは、(1)図書館・官庁・企業体等における情報の収集・処理・提供に関する業務の実際を理解する、(2)上記業務の実務能力を修得する、(3)職業意識を高め、専門的職業人のあり方を考える、ということを目的としています。実施時期は、原則として、7月初旬から8月末までの2週間（10日間）です。

内容は、実施機関によって多少異なりますが、図書館関係では、①管理業務、②資料組織業務、③サービス業務など、官庁・企業体関係では、①情報システム関係業務、②データベース・情報検索システム関係業務、③各種調査業務などを基本としています。

インターンシップは、大学の授業だけでは学べない貴重な経験となるはずですが、ただし、実施機関では忙しい時間を割いて指導して下さるのですから、履修する以上は真剣に取り組み、与えられたことだけをこなすのではなく、何をすればよいのか自分で考え、わからなければ質問をするという積極的な姿勢で臨むことが求められます。（緑川 信之）

チャレンジ大分国体に出場して

野中 香里・後藤 里奈



9月30日～10月7日、チャレンジ大分国体にセーリング部門で出場しました。その直前の9月27、28日が関東インカレ予選という、とても慌ただしい日程でした。

昨年は、秋田で行われた国体に出場しましたが、そのときは着ぐるみのマスコットが毎日大会を盛り上げていたり、地域の人とその土地の名物料理を会場でご馳走してくれたりしました。大分

の大会ではそのようなことがなく、同じ国体でも雰囲気がとても異なることに驚きました。今年の会場は、温泉で有名な別府市ということで、毎日温泉に入ることができて幸せでした。

大会中は、毎朝6時半に外で体操をし、7時に朝食をとり、身仕度をすませると会場に行って、艇の準備をしました。最初の二日間は、練習とトライアルレースという運営の確認を目的としたレースを行います。練習は茨城チーム内で行いました。

そしていよいよ、本番のレースが始まります。ヨットの種類はSS（セーリングスピリッツ）級です。本番では各都道府県からの代表でレースが行われ、なかにはオリンピックに出場した選手もいて圧巻でした。レースでは、風が吹かない日があると、その日は風待ちで海に出られません。本来5レースが予定されていたのですが、私たちは、結局2レースしか消化できず、その点は残念でした。

結果は29位と、決してよくありませんでしたが、とてもいい思い出となりました。監督、選手の仲間、宿の皆さん、会場先のボランティアの方をはじめとして、国体に携わったすべての人達に感謝しています。

（のなか・かおり 図書館情報専門学群3年次）

（ごとう・りな 知識情報・図書館学類2年次）



左の写真は、野中さん（左）と後藤さん。右の写真は、出艇許可がおりて一齐に出艇しようとしているところです。出艇許可の旗があがると、早く艇を出そうとして一気に慌ただしくなります。スロープ近くには応援の人もいて、混み合っています。

海外便り デンマークの公共図書館

吉田 右子

8月から来年3月までの予定で、デンマーク王立図書館情報大学に滞在しています。はじめて北欧を訪れたのは2年前です。その時はノルウェー、デンマーク、スウェーデンの3ヶ国を大急ぎで駆け回りました。今回はゆっくりとしたペースで図書館を訪れています。

コペンハーゲンに到着したのは夏真っ盛りの8月はじめでした。北欧では、この季節はだれもが太陽を浴びるために生きているので、図書館は閑散としていました。夜10時を回ってやっと外が暗くなることもあり、なるべく屋外で過ごすのです。ブックモービルも砂浜に出張します。しかし、そんな夢のような季節が終わるとだんだん日が短くなり、長く暗い冬が始まります。北欧の図書館は、基本的に週末は閉館していますが、10月からは週末も開館します。



図書館が本領を発揮するのは、これからのようです。公共図書館の最もにぎわう季節に、北欧の人々がどのように図書館を利用し、図書館員は利用者の期待にどんなふうに応えていくのかを、研究者としてはもちろん、住民としてよく観察したいと思っています。

(よしだ・ゆうこ 知識情報・図書館学類 准教授)

ブローゴーデン公共図書館（コペンハーゲン）



小さい分館のヤングアダルトコーナー
ビスベジャー公共図書館（コペンハーゲン）



広々とした空間での絵画の貸出
リュンビュ公共図書館（リュンビュ）